

(様式6)

令和7年12月16日

令和7年度博物館専門職員等在外派遣事業実施報告書

文化庁次長 殿

住 所 和歌山県和歌山市伝法橋南ノ丁
12-1 702

氏 名 青木加苗

令和7年度博物館専門職員等在外派遣事業の実施結果について、下記のとおり報告します。

1 派遣期間 令和7年11月9日 ～ 令和7年11月17日

2 派遣概要

(1) 派遣先名称

第27回 ICOM ドバイ大会 2025

(2) 派遣内容

ICOM ICFA 委員長として、ドバイ大会での委員会運営を行った。ICFAはドバイでの開催に向けて、「Art and Ethnicity 美術と民族性」をテーマに掲げて国際委員会のセッションを企画した。委員会名である「fine art」は、もともと西欧文化に根ざした概念であるため、委員会の扱う範囲や概念自体を世界視野に広げることは、当委員会が近年意識してきた課題であった。特に欧米のミュージアムにおいては、他地域の「art」は民族学の視点で収集展示されてきたという事実がある。それぞれの地域で「art」や「fine art」と独自に認識しているものが、一方では周縁的と位置付けられてしまう非対称性に向き合うことこそが、



現在 fine art に携わるわれわれが取り組むべき decolonization であると考えている。

こうした視点のもと、ICFA は 3 つのセッションを計画し、それぞれに 4~5 人／グループによる発表の場を設けた。また派遣者は Session A と C のモデレーターを務めた。なお、セッションテーマと企画概要は以下の通りである。



- Session A: Traditions and Fusions - The Role of Museums in a Changing World (伝統と融合—変わりゆく世界における美術館の役割)
- Session B: What Technology Enhances - Digital Innovation and Artistic Expression (技術がもたらすもの—デジタル革新と芸術表現)
- Session C: Art and creativity in Arab cities: Transformation (アラブ都市における芸術と創造性—変容) *CAMOC との合同セッション

また IC Day (委員会独自に設定する活動日) には、Sharjah 美術館と同地の美術財団を訪問する見学ツアーをオフサイトミーティングとして開催した。テーマには **Curating Identity: Collection Making at Sharjah Art Museum**

(アイデンティティをキュレーションする：シャールジャ美術館のコレクション形成) を据え、新たな国が自国、地域の美術史をどのように作り上げるのか、その際、西洋からの視点はどのように位置づけられるのかを議論した。

なお fine art を扱う委員会としては当然、メガミュージアムである Louvre Abu Dhabi も訪問候補に挙がったが、主体的に地域から語られるアイデンティティ形成の可能性を研究すべきというわれわれの課題意識から、最終的には選択しなかった。



そのほか、国際委員長会議、諮問会議、総会に出席し、国際委員会委員長として各種議決への議論に参加、投票を行い、各国のメンバー、関係者とのネットワーキングを行った。

(3) 派遣成果

ICFA の委員長としては、委員会メンバーおよびメンバー候補と直接のコミュニケーションを取ること、活動への関心を高められた。特に前回インドで開催した会合に引き続き、アラブ圏からの関心を得られたことは大きな成果である。IC Day にはメンバー以外の参加もあり、複数人から ICFA 加入について直接の相談を受けた。彼らとのネットワークを広げつつ、アラブ圏、アジア圏、非欧米圏とのさらなる関わりを今後の活動計画に反映させていく。

一方、本派遣の成果は、日本の学芸員としてのプレゼンスをさらに高められたことであろう。2015 年に参加した ICOM-ITC（北京）での研修メンバー、講師らと再会し、彼らの国内委員会メンバーとのコミュニケーションも深めた。

ICFA は本大会では次期ボードメンバーの選挙を行わず、1 月に行う。今回の大会参加を通じて、引き続き委員長として活動することへの期待の声を受けたため、立候補したいと考えている。ICOM 日本委員会から継続して委員長のポジションに就くことが、国内へもたらせる最大の成果となると考える。

(4) 成果の活用計画

京都大会の運営委員を務めたこともあり、ICOM 大会への参加は 2016 年から 4 回目となるが、委員長として参加する初の大会では、美術館関係でのネットワーク拡大のほか、異なる館種のメンバーとの接点もますます新たに得られた。派遣者は ICOM 日本委員会の理事も拝命しており、ICOM 日本委員会での機会も利用しながら、一学芸員がその専門性を活かして、国際的な研究活動およびボランティアな立場で世界の博物館界に寄与する必要性を、積極的に国内の博物館関係者に周知していきたい。

また所属館の情報発信媒体も活かしながら、公立館の職員がそのプレゼンスを国際的に高める努力をする様子を伝えることは、日本の学芸員の社会的な地位向上にも資すると考える。

なにより、今回の派遣を通じて得られた現代の「美術（館）」が抱える課題へのさまざまな視点は、美術館学芸員としての今後の企画立案を通じても、活用していきたい。

(5) その他

到着日には空き時間を活かして、現代美術のアートセンター Jameel Arts Centre や、



ギャラリーコンプレックス Alserkal Avenue を訪れ、ドバイにおけるアートシーンの一端を調査した。またエクスカーションではユネスコ世界遺産にも登録されているアル・アインのアル・ジャヒリ要塞等を訪れ、UAE の歴史遺産とそのナラティブを調査した。